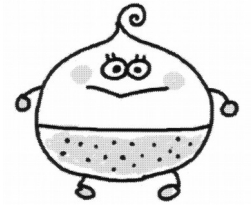


# HDM推進会（第 48回）／ごみゼロネット推進会（第 70回）議事録

開催日： 2014 年(H26 年) 3 月 12 日 (水) 10:00 ～ 11:40

場 所： レストラン・ジョナサン

出席者： 加藤、杉本、川村、林、山本、桐生（作成）



状 況： 「三市共同処理も決まり、当面のごみ処理問題は解消した。市長方針で生ごみの分別収集もやらない。これ以上市民側と市側が協議の場を持って何の進展もないから、市と HDM 推進会が会合を持ってきた HDM 導入検討会は 3 月末を以て終了したい」との市側の提案を受け入れざるを得なかった。我々と市側との接点はなくなり、市民側から行政にごみ問題で提案・協議する場を失った。前回の会議で、□日野市、国分寺市と小金井市の市民グループで意見交換の場を持ち、局面展開を図る、□大橋氏が管理する「ごみゼロネット」を再活性化させて、これまでの経緯の公開、我々の主張を広く世に問う、の二方面の活動に重点を置いて、この会を推進しようと決定した。これは□項に関する会議である。

## 議 題：

本日は加藤氏提供の資料「 2014 年 3 月ごみ・生ごみの動き」（付属資料共で 4 頁）により、説明願った。要点を下記する。

- (1) 三市ごみ市民団体役員の初会合が2/25 に開催された。日野市は小野寺氏（ひのごみゼロ推進協議会）、国分寺市は中平氏(5303の会)、小金井市は加藤氏である。三市共同化を含むごみ全般について話し合う。特に共同化の基本計画が決まる前に、本当に必要な処理容量等の基礎数値をこの会で決定することが重要。各市副代表を指名する。互選で小金井市は山本氏が指名された。
- (2) 新年度予算に挙がる予定の「大型生ごみ減量化処理機器設置促進事業」について、加藤氏の試算をベースに全員で討議した。総予算300 万円で 3 箇所を予定、補助率4/5 で100 万円限度。保守・修繕・運営管理に関わる経費は団体負担。

市の生ごみ処理機借上料（平成 24 年度）					
施設	処理規模	タイプ	メーカー	借上料円	投入量/年
小金井保育園	20 kg/日	乾燥型	松下電器	158,760	3,955 kg
市内マンション	60 kg/日	ハイブリット	静岡ニチデン	1,096,200	2,820 kg
グリーンタウン	100 kg/日	乾燥型	高木産業	718,200	4,430 kg
小金井貫井住宅	100 kg/日	乾燥型	高木産業	851,508	8,990 kg

上表の現在稼働中の大型生ごみ処理機の実績から、これらを市民団体が ①自己負担分を支払って導入し、②毎年保守・修繕・運営管理に関する費用を自己負担した場合③この団体の得る利益と費用の分析を行った。利益は団体の成員が同じ処理量の生ごみを出すに要する「黄色袋の費用」と「成員としての費用負担」である。上表の実績値から試算して、「団体成員にとっては何の得にもならない」ことが明白。

この予算の審議において、市議より行政に対し「これでどれ位の減量を見込んでいるのか」「団体にとってのメリットは幾らか」と数値的根拠を質問してもらうことにした。

## まとめ：

林氏より「我々の目標は、小金井市の生ごみ全量を一個所で処理できる消滅型の微生物処理施設でなかったか」「大量の電力を消費し、相当量の残渣を出す数0 kg級の生ごみ処理装置を検討するのは会の目的に適っているのか」との鋭い指摘があり、他の会員より「その通りだが、現時点では求心力維持のため止むなくテーマに取り上げている」「大橋氏のごみゼロネット用に既に大量の議事録、見学報告、講演会記録等のファイルを提出済みであり、我々の主張を大きく社会に訴えて、局面打開を図りたい」と発言あった。我々は苦しい立場にある。求心力維持のため何をなすべきかが問われている局面である。

次回打合せ 4月16日 (水) 10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ  
1/1